

釜石市議会議長 千葉 榮 様

令和8年2月10日

会派名
代表者

至誠の会
工藤聡一郎

会派研修報告書

会派研修（21世紀の会・至誠の会）を下記の通り実施しましたので、報告いたします。

1. 研修内容

テーマ 住民が求める議員・議会の役割と議員としての心構え
講師 廣瀬 和彦 氏（株式会社廣瀬行政研究所 代表取締役）

2. 研修日時

令和8年1月29日（木） 10:00～12:15（※公務都合により途中退席）

3. 研修場所

としま産業振興プラザ IKE・Biz 美術室（東京都豊島区西池袋2-37-4）

4. 参加者

21世紀の会 佐々木義昭、 千葉榮（議長）
至誠の会 工藤聡一郎、 佐々木聡（副議長）

5. 研修内容の要旨

本研修では、廣瀬和彦氏より、地方議会が直面する課題と、議員が立ち返るべき原点について講義が行われた。二元代表制における議会と首長の関係、議員としての七つの心構え、議会のあるべき姿、議員・議会の役割について、具体例を交え体系的に示された。

まず、二元代表制の下では、首長と議会はいずれも住民の直接選挙によって選ばれる対等の機関であり、政策ごとに妥当性を判断すべきであることが示された。地方議会には与党・野党という関係は存在せず、議会は首長と緊張関係を保ちつつ、相互に抑制・均衡を図る役割を担うことが強調された。

次に、議員としての七つの心構えとして、「住民全体の代表であること」「良識ある言動」「発言・発信への責任」「職員との適切な距離感」「地方議会に与党・野党はないこと」「申し合わせ・先例の遵守」「議員間討議の重視」が示された。特に、一部地域や特定団体への利益誘導を目的とした活動の問題点について、「御当地ソング議員」「ドブ板議員」という表現を用いて指摘された。

また、議会の役割として、①議事機関、②住民代表機関、③立法機関、④監視機関の四つの機能が整理された。監視機関としての役割においては、単なる



批判や追及にとどまらず、改善策や代替案を示すことの重要性が示された。立法機関としては、議員提案条例や予算修正、意見書提出などの制度的枠組みについて、実務的な説明がなされた。

さらに、質問と質疑の違いや、調査権の種類（強制力を伴う調査権と任意の調査権）、資料要求の制度的制約について整理が行われ、事実に基づいた質問の重要性や、議会としての合意形成の必要性が強調された。

住民から求められる議会像としては、「何をしているかが分かる」見える化と、「住民の声が政策に反映される」実効性が重要であり、組織に属する住民の声だけでなく、弱い立場の住民や組織に属さない住民の声を拾い上げる姿勢が求められることが示された。

6. 所感

本研修では、地方議会が直面する課題と、議員が立ち返るべき原点について、体系的に学ぶことができた。

「議員としての七つの心構え」は、一般質問や住民対応など、日常の議員活動のあらゆる場面で問われる行動規範であることを再認識した。特に「住民全体の代表である」という視点については、地域課題を取り上げる際にも、それが住民全体の公益に資するかを常に検証する必要がある。今後は、一般質問の準備段階から、「誰のための質問か」「住民全体の利益に資するか」という視点を意識して取り組みたい。

また、地方議員には免責特権がなく、議場内外での発言すべてに責任が伴うとの指摘は、発言の重みを改めて認識させるものであった。特に SNS による情報発信については、公的発言であることを自覚し、内容を十分に確認した上で行うことを徹底したい。質問についても、推測ではなく事実に基づく姿勢を堅持したい。

職員との関係については、資料要求や調査依頼は法的には「命令」ではなく「お願い」であり、住民福祉の向上という共通目的に向かう協力関係であることを再確認した。申し合わせ事項や先例についても、原則として遵守し、必要があれば議会運営委員会等で正式に見直すべきである。

議会の役割については、監視機関としての機能だけでなく、立法機関・政策立案機関としての役割をより発揮する必要性を感じた。所管事務調査についても、調査にとどめるのではなく、政策提言や議員提案条例へと結び付けることを意識したい。

また、議事機関としての役割については、執行部との質疑が中心となり、議員間討議が十分に行われていない現状に課題を感じた。討議（合意形成前の調整）と討論（賛否決定後の主張）の違いを踏まえ、質疑と討論の間に議員間討議を位置付ける仕組みについて検討したい。

住民から求められる議会像は、「何をしているかが分かる」見える化と、「住民の声が政策に反映される」実効性である。一般質問で提起した課題を議員間討議の対象とし、議会としての決議や提言に昇華させることで、個人の問題提起を議会全体の意思とし、執行部への影響力を高めていきたい。

報告者

工藤聡一郎